

平成 21 年度第 1 回新潟市若年者自立支援ネットワーク会議 議事録

と き:平成 21 年 8 月 26 日(水)

と ころ:新潟市役所第一分館 1-601 会議室

発 言 者	発 言 概 要
司 会	<ul style="list-style-type: none">○ 只今から、「平成 21 年度第 1 回新潟市若年者自立支援ネットワーク会議」を開催させていただきます。○ 本日は、大変お忙しい中、皆様方からお集まりいただき、大変ありがとうございます。○ 私は、本日の司会を務めさせていただきます、商業振興・雇用対策課雇用対策室長の笠原と申します。 よろしくをお願いします。○ 本来であれば、ここで私ども商業振興・雇用対策課長がご挨拶申し上げるところでございますが、本日、急な公務の都合により欠席させていただきます。 大変申し訳ございません。お許しいただきたいと思います。○ 限られた時間ですので、早速、会議を進めさせていただきます。○ 最初に資料の確認をお願いします。○ 本日、お手元に配付しております資料は、 本日の会議の次第、出席者名簿及び座席表 資料 1 「現下の雇用状況等について」 資料 2 「2008 年度新潟地域若者サポートステーションの事業実績について」 資料 3 「2009 年度新潟地域若者サポートステーションの活動内容と課題」 資料 4 「コミュニティ・カフェ(就労体験事業所 & 居場所)事業について」 資料 5 「新潟市若年者自立支援ネットワーク会議設置要綱」です。○ また、追加で関係の方から資料配付がございます。○ ひとつ目は、「地域若者サポートステーション事例集」という冊子です。○ ピンクの紙で、新潟地域若者サポートステーションの 8 月予定表です。○ 「インディペンデント・レター」というものです。○ 「ぐっ！Job！」という冊子です。○ また、若者サポートステーションのリーフレットも併せて配付させていただきました。○ 以上ですが、よろしいでしょうか。

司 会

- 本日、会議の議事録を作成させていただくため、録音させていただきますことをご了承願いたいと思います。
- 続きまして、委員の皆様の紹介に入らせていただきます。
- 本会議は、平成19年7月に設置され、本年3月末をもちまして委員の任期が終了したものです。
- 今回の会議に先立ち、皆様に委員の委嘱をお願いいたしましたところ、快くご承諾いただき大変ありがとうございました。
この場をお借りし、改めて御礼申し上げます。
- 今回は、新たな委員として初めての会議ですので、私から、委員の皆様をご紹介させていただきます。
- 申し訳ありませんが、本日の皆様の席順につきましては、委員氏名の五十音順とさせていただきます。
ご了承をお願いします。
- それでは、席順にご紹介させていただきます。
 - ・新潟市万代市民会館(新潟市青年の家)館長・石黒委員です。
 - ・新潟労働局職業安定部職業安定課長・石田委員です。
 - ・若え衆ら・サポートネットにいがた代表・市嶋委員です。
 - ・新潟商工会議所中小企業振興部次長・今井委員です。
 - ・新潟県発達障がい者支援センター主任・加治委員です。
 - ・新潟市職業訓練協会事務局長・神田委員です。
 - ・NSGカレッジリーグSTEP専修新潟推進部・久住委員です。
 - ・新潟大学キャリアセンター准教授・西條委員です。
 - ・新潟市民生委員児童委員協議会連合会青少年部会長・篠田委員です。
 - ・新潟市健康福祉部健康福祉総務課長・高橋委員の代理として、同課の板垣課長補佐です。
 - ・独立行政法人雇用・能力開発機構新潟センター調査役・田村委員の代理として、野村委託訓練第一係長です。
 - ・就労体験受入企業連絡会の株式会社中島映像教材出版代表取締役・中島委員です。
- 中島委員におかれては、現在おいでになっていませんが、まもなく来られると思いますので会議を進めさせていただきます。
 - ・新潟公共職業安定所長・樋口委員です。
 - ・新潟市健康福祉部こころの健康センター所長・福島委員です。
 - ・新潟市教育委員会学校支援課長・南委員の代理として、同課の佐藤指導主事です。
 - ・新潟県産業労働観光部労政雇用課長・矢野委員です。

<p>司 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ なお、社団法人新潟県経営者協会事務局長の山岸委員が本日ご欠席となっています。 ○ 市の職員を除く委員の皆様の委嘱状につきましては、大変申し訳ありませんが、机上に配付させていただいています。 ご確認いただきたいと思います。 ○ 今回の委員の任期につきましては、平成23年3月31日までとなっています。よろしくお願いいたします。 ○ 続きまして、私ども事務局を紹介させていただきます。 ○ はじめに、 <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市商業振興・雇用対策課雇用対策室主幹の新井田です。 ・同じく雇用対策室主査の工藤です。 ・新潟地域若者サポートステーションの竹葉所長です。 ・同じくサポートステーションの新美カウンセラーです。 ○ 以上、事務局の紹介をさせていただきました。 よろしくお願いいたします。 ○ 続きまして、本会議の会長及び副会長の選出を行いたいと思います。 ○ 会長、副会長の選出につきましては、要綱第7条第1項の規定により、委員の互選により決定することとなっています。 ○ 委員の皆様からご推薦などございましたら、よろしくお願いいたします。
<p>今井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私から提案ですが、サポートステーションが開設3年目を迎えており、これまでも効果的な運営がなされています。 ○ 本ネットワーク会議の継続性を考えますと、会長には引き続き、新潟大学キャリアセンター准教授の西條委員、副会長には新潟市こころの健康センター所長の福島委員の推薦を提案します。
<p>司 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 只今、今井委員より、会長には新潟大学キャリアセンター准教授の西條委員、副会長には新潟市こころの健康センター所長の福島委員との推薦がございましたが、皆様いかがでしょうか。 <p style="text-align: center;">(「異議なし」の声)</p>
<p>司 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ ただいま、異議なしの声をいただきましたので、会長には新潟大学キャリアセンター准教授の西條秀俊委員、副会長には新潟市こころの健康センター所長の福島昇委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

司 会	<ul style="list-style-type: none"> ○ それでは、会長、副会長席に移動をお願いします。 ○ 会長、副会長より一言ご挨拶をお願いします。
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新潟大学キャリアセンターの西條と申します。 ○ 大変厳しい雇用環境ですが、本会議の設置目的にもあります、若者の自立支援の効果的な展開に向けて、皆様とともに考えていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。
福島副会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福島です。 ○ この会も3年目になり、より良いネットワークの形成に向け、会長をサポートしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ それでは、要綱に従ひ、西條会長より議長をお願いします。
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ それでは、議事に入りたいと思ひます。 ○ 次第に従ひまして、3の「報告事項」の(1)「現下の雇用状況等について」、事務局から説明をお願いします。
事務局(笠原)	<p style="text-align: center;">事務局により、資料1「現下の雇用状況等について」説明</p>
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ ただいまの事務局からの説明について、皆さんからご質問、ご意見はございますか。 ○ 特にご質問はないようですので、次の議題に入らせていただきます。 ○ 次に(2)新潟地域若者サポートステーションの事業実績等について事務局から説明をお願いします。 ○ はじめに、「2008年度『新潟地域若者サポートステーション』の事業実績について」お願いします。
事務局(新井田)	<p style="text-align: center;">事務局により、資料2「2008年度『新潟地域若者サポートステーション』の事業実績について」説明</p>
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。

<p>事務局(竹葉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ただいまの事務局からの説明について、何かご質問、ご意見はございますか。 ○ 特にご質問がないようですので、続いて「2009年度『新潟地域若者サポートステーション』の活動内容について」のご説明をお願いします。 <p>事務局により、資料3「2009年度新潟地域若者サポートステーションの活動内容と課題」説明</p>
<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ 只今の竹葉所長からの報告について、何かご質問、ご意見はございますか。 ○ 私から1点ご質問させていただきたいと思います。 ○ 6月・7月は延べ人数が200名位増えているような印象を受けます。 ○ 先ほど新聞の記事の影響というお話があったと思うのですが、増えている理由・原因というか、印象でも結構ですが、背景というものがありませんでしょうか。
<p>事務局(竹葉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新聞の記事に取り上げていただきますと、こういう施設があることすら知らなかったという声も非常に多いです。 ○ 我々が考えている以上に、存在を知らない人も多いと思うのです。 ○ 3年目に入ったということ、新聞などに出ることによって、徐々に知名度も上がってきているのではないかということ、やはりネットワークの方から紹介をいただくようなことなどの数字の積み重ねではないかと感じています。 ○ 私どもとしては、まだまだPR活動が足りないと思っています。 ○ これからも、事あるごとに新聞の記事にしてもらうような活動を進めていきたいと考えています。
<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ 他に何かご質問、ご意見はございますか

<p>田村委員 (代理:野村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表の見方で教えていただきたいことがあるのですが、6ページの別紙1で、進路決定者数の全合計で154名と書いてありますが、内数として、就職者数や職業訓練に進まれている方がいらっしゃるかと思います。 ○ その中で職業訓練に進まれている方、当然、その先には就職というものがあるかと思うのですが、職業訓練に進まれて、その後就職している方というのは、この後の就職者数にまた数字があがってくるのでしょうか。 ○ それとも、職業訓練に進んだところでこの数字は終わっているのでしょうか。
<p>事務局(竹葉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ それは追跡しています。 ○ ただ残念ながら、例えばテクノスクールを出たからといって、すぐに就職に繋がる人もいるし、繋がらない人もいて、それはまた私どものステーションに戻ってきます。 ○ ですから「ベースキャンプ」という言葉を使わせてもらったのですが、また次に挑戦しようということなので、数字は入っていません。追跡はしています。
<p>田村委員 (代理:野村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業訓練が終わって就職した方は、就職者数にも数字があがってくるということですか。
<p>事務局(竹葉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ (職業訓練が終わって就職した方は就職者数には入っていません。職業訓練が終わって就職に繋がらずサポステに戻って来た方が就職した場合には) 入ります。
<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他にございますか。 ○ 特にないようですので、次の議事に入らせていただきます。 ○ 次に、これまで自立支援の取り組みの中から、委員の皆様にご共通認識を持っていただく意味で、いくつかの個別事例について、同じく竹葉所長からご報告をお願いします。
<p>事務局(竹葉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事例の方はいろいろと差し障りがあるので、口頭の報告でお許しいただきたいと思います。 ○ サポートステーションに来て順調に歩み始めたという人の事例を3点ご報告させていただきます。 ○ 私共の新美から事例を報告しますので、よろしくをお願いします。

事務局(新美)	事務局より個別事例を3例報告
事務局(竹葉)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 以上のように、自立していくには何かきっかけが必要なのです ○ そのきっかけというものが意外と我々というよりも、その仲間が非常に大切だと思います。 ○ サポートステーションに来れば仲間がいるという、接点を大事にしていきたいと私どもは考えています。
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございました。 ○ ただいまの個別事例のご報告について、何かご質問、ご意見はございますか。
市嶋委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今の事例の3人の方とも私は面識があり、非常に整理されたお話でしたが、二つほど気づいたことがありました。 ○ 2番目の方のケースは、「やる気」という言葉がキーワードになっていたのです。 ○ 殆どのニートと言われる生きづらさを抱えた若者たちは、基本的にやる気はないと認識しておりますし、接した方の大半がそうでした。 ○ そうすると、「やる気」とか「自立」という言葉もそうなのですが、「頑張る」という言葉、意味を言語化していくというのは、支援をする上では非常にマイナスに働くということを、ここにいらっしゃる委員の方には認識していただきたいと思います。 ○ 非常に傷ついた経験のある人たちに対して、そういう言葉は追い打ちをかける言葉に近くなります。 ○ うつ病の人に頑張りなさいということと、少し似ているところもあると思います。 ○ これはキーワードかもしれません。 ○ 「自立支援」という言葉を我々は使っているのですが、本人にとっては「自立」という言葉は、もともと自立したくてあがいているわけですが、それを言語化して言われるということは非常に辛いことに繋がるのだということです。 ○ 3人の方に共通して言えるのは、過去の傷つき体験から立ち直らないかぎりは次のステップになかなか進めない。 ○ ということは、自己否定から自己肯定にどのように移れるのか。 ○ それとともに、自信を取り戻していくというプロセスがきちんと踏まれないかぎりは、いきなり社会で就労ということに結びつかない。

市嶋委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ そういう意味では、サポートステーションの丁寧な対応がとても大事で、ある意味効果がきちんと出て、今の3人の方はステップを踏めるようになったという、この2点について非常に整理されていると感じたところです。
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ 只今の市嶋委員のご意見、ご感想を含めて、皆さんからのご意見等はございますか。
福島副会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教えていただきたいのですが、うまくいったケースを3ケース紹介していただきました。 ○ 先ほども少し話が出たかもしれませんが、サポートステーションから次のステップに行くのに時間がかかるケースや、うまく就労に結び付かないケースというものについて、いくつか事例的なものを教えていただければと思います。
事務局(竹葉)	<ul style="list-style-type: none"> ○ まず一つは、発達障がいといいますか、療育手帳を持っている方も実際におります。 ○ 実は、発達障がいに関するビデオ学習をやってみたのです。 ○ 抵抗があるかなと思ったら、意外と参加が多くて、同じ学習を2回やったのです。 ○ 発達障がいということは本人も気付いていない、保護者に会うとそれは絶対に認めたくない。 ○ そういう方が何人かいるのですが、そういう方は就職は無理なのです。 ○ そういう人たちの就労先にはどういうところがあるかという、先ほど言った、相当理解のあるところでないと、就職先としては務まらない訳です。 ○ 過去に、お前、なにぐずぐずやっているんだと。 ○ 人の半分もできないということの繰り返しで、彼らはサポートステーションに来ているのです。 ○ そういう人たちが、先ほど市嶋委員から話があったように、そういう体験というものがすり込まれている。 ○ 自信を持っていない。その自信を持たせるにはどうしたらいいかということで、ボランティアなどをやって、良かった。 ○ そういうことを体験させたりしておりますが、就職できない人たちの一つのグループは発達障がい系で、普通の就職はまず無理。 ○ そういうところで、我々が何とかそういう場を作りたいということなのです。

事務局(竹葉)

- また、協力していただける場を作りたいというのが1点です。
- もう一つは、誰が見ても問題ないのではないかというタイプのグループがいます。
- これは、ややもすると評論家といいますか、我々職員をチェックします。あの職員はどうだと。
- 少しでもきついことを言うと、すぐ他の職員に泣きついて、こういうことを言われたと。
- やれば就職できるのですが、その一步が踏み出せない何かを持っているのです。
- 今まで就職したことがない人もいますし、就職してマイナスの体験を持っている人もいます。
- やはりこの人たちが長いのです。
- 話をしてもまともですし、ただ、こういうことはどう？と言うと、やりますと言うけれども、間際になって、やはり止めますということの繰り返しなのです。
- 1回、背中を押してみたら、かなりきつく言われたとあって、私も後から他の職員に聞きましたが、所長からきつく言われたと。
- ただ、私は少し勇気を出してやれるよ、やってみようかというくらいのスタンスで言ったのですが、きつかったらしいのです。
- タイプとしてはいろいろとあるのですが、長期化しているタイプはそういうタイプです。
- 今度は一人ひとりに、あなたはここまで出来るよね、これも出来るよね、あとは何が足りないのだろうという気付きをどのようにやらせるかということ、やはりプログラムのなものがいいのではないかということで、今、それを職員と一緒に作っている段階です。

会 長

- ありがとうございました。
- 他に何かございますか。

- 他にご質問などがないようですので、次の議事に入らせていただきます。
- 続きまして、「(4) 課題について」。
- 新潟地域若者サポートステーションは平成19年7月9日に開所し、2年余りが経過しました。

- この間、対象者への自立支援では大変なご苦勞もあったことと思いますが、その中で出てきた課題について、同じく竹葉所長からご報告をお願いします。

事務局(竹葉)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先ほどの資料3の4ページ,5ページで課題も報告をしたのですが,3年目に入ってすべてが順調にしているようなのですが,課題は多いのです。 ○ 我々も日々忙しい中で,目の前の相談や個別案件に振り回されているようなケースがあって,いろいろとやろうとしていることが出来ない。 ○ そのようなことで,先ほど課題を次の居場所の問題や理解あるジョブ・トレーニング先の開拓,利用者の就労の場の開拓も必要であるとか,利用傾向が長くなっている。 ○ 俺は2年もサポートステーションにいるんだと自慢している子もいますが,そういう人達をどうするかとか,職員のレベルアップをどうするかとか,いろいろなテーマがあるのです。 ○ それについてどうしたらいいかということが一部書いてありますが,まったく見えないところもあって,ややもすると,井の中の蛙になる危険も感じています。 ○ 我々は,利用者が自立するために,職員全員が真剣に考えており,その努力が少しでも報われるように,皆様から,こういう課題であればこんなことをやった方がいいのではないかというアドバイスをいただければありがたいと思っています。
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 只今ご説明がりましたが,皆さんから何か課題についてご意見やご質問がございますか。
事務局(新井田)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新潟市から,課題に関連して1点ご報告させていただきたい事項がございます。 ○ 昨年来,急激に経済情勢が悪化し,大勢の離職を余儀なくされた方がいらっしゃいます。 ○ 本市では,国からの交付金を活用し,緊急雇用創出事業及びふるさと雇用再生特別基金事業を実施しています。 ○ 新たな雇用の創出を図っているところですが,このうち,ふるさと雇用再生特別基金事業では,民間事業者などから安定的な雇用が見込まれる事業提案について公募を行いました。 ○ その結果,6事業の実施を決定し,間もなく事業の開始ができるよう準備を進めているところです。 ○ その中で,若者の職業的自立支援を目的とした,先ほど竹葉所長からも話がありました,「コミュニティ・カフェ事業」というものがございます。

事務局(新井田)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新潟地域若者サポートステーションと今後連携を図りながら実施したいということから、ここで皆様にコミュニティ・カフェの事業概要について説明させていただきます。 ○ 皆様にお配りしました配付資料4をご覧くださいと思います。
事務局(工藤)	事務局より資料4「コミュニティ・カフェ(就労体験事業所 & 居場所)事業について」説明
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございました。 ○ ただいま事務局から課題と緊急雇用対策の事業について報告がありましたが、これらの課題についての解決策やご質問、ご意見はございますか。
市嶋委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 竹葉所長にお聞きしたいのですが、ジョブ・トレーニングはまだまだ受入先を増やしていかなければならないということがあると思います。 ○ トライアル雇用という視点に関しては、今、どのような状況で、どのような展望がありますか。
事務局(竹葉)	<ul style="list-style-type: none"> ○ トライアル雇用は、現段階で私どもの利用者にとってはハードルが高すぎます。 ○ というのは、市嶋委員がどう考えておられるか分かりませんが、私としては、失敗体験を話したくないという臆病な部分もあって、トライアル雇用というのはすばらしい制度なのですが、うちの利用者にとっては荷が重すぎる。 ○ 全員という訳ではないのですが、中にはいるかもしれませんけれども、その期間やりきれるかとか、市嶋委員もご存知のように、うちの利用者の特色として非常に飽きっぽい。 ○ 一つのことに集中してできない。 全員とはいいませんけれども、そういう傾向があります。 ○ ですから、ジョブ・トレーニングも毎日ではできない。 ○ 週二日とか三日とか、それも1時間とか2時間、それもやり遂げられない人もいます。 ○ 非常にバラつきがありますけれども。 ○ そうすると、毎日、朝8時半からということをして、全員が出来ないとは言いませんが、全般的に取り組みがまだ出来ていないし、私の判断ではまだハードルが高いのではないかと思います。

<p>市嶋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ というのは、ジョブ・トレーニングの実態を見ていると、体験が社会参加就労に決して結びついていない例が多すぎるような気がしまして、ジョブ・トレーニングをやれば、あたかもそこから先がつながるような幻想の中でやってはいけないと思っています。 ○ ジョブ・トレーニングの後にトライアル雇用のようなステップがきちんとできている中でジョブ・トレーニングをやっていかないと、双方が非常にエネルギーを使って、それなりの体験をしたけれども、それが具体的な成果として生きてきにくい。 ○ おっしゃるように、最初からトライアル雇用というのはハードルが高いと思うのですが、ジョブ・トレーニングの後のビジョンとして、そこは持っていないと、ベースキャンプへ戻ったきりで、その後がなかなか見えてこない。 ○ そちら辺も、ある程度開拓していく必要があるのではないかと。 ○ ジョブ・トレーニングの受入先がそのままそういう形になっていくのが一番スムーズかもしれないのですが、やはりそういう視点も必要なのではないかと思います。
<p>事務局(竹葉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ ジョブ・トレーニングの関連で申し上げますと、中島映像さんからコンスタントにジョブ・トレーニングの受入先として、うちの利用者が大勢お世話になり、確実にジョブ・トレーニングからアルバイトという形は出来ています。 ○ ジョブ・トレーニングの受入先が、利用者はこういうふうな人だと、例えば普通の25歳の人よりもかなり手も遅いし、理解力もないということを理解した上で、現場でやさしく指導してもらえると、これが自信になってアルバイトになっていきます。 ○ ですから、市嶋委員がおっしゃるとおり、出来ないのではなくて、トライアル雇用などといったものも、もう少し大きく考えて取り組みをしていきたいと思っています。
<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ 他にいかがでしょうか。 よろしいでしょうか。 ○ 今、中島委員にお越しいただきました。 ○ メンバーが多数替わっているので、一言お願いします。

<p>中島委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大変申し訳ありません。 ○ 会社を出るまではきちんとスケジュールリングされていたのですが、バタバタしているうちに、気がついたら10時を大分過ぎておりました。 ○ このようなみっともないことで、お詫び申し上げます。 ○ 今ほどのご発言の中にあつたように、うちでジョブ・トレーニングをやらせていただいています。 ○ 私は、彼らがその後就労に向かってどのような歩みをしているかということに関しましては十分に把握はしておりませんが、Sという者がおりますので、それについて十分に把握しているだろうと思います。 ○ その後の話はきちんと聞きたいと思います。 ○ ただ、やっている間にかなり元気になることは事実です。 ○ 最初は人見知りだったのが、毎日来ているうちに馴染んでくるといふ雰囲気を感じているのは事実です。 ○ もし出来るならば、例えば、このたび県立野球場も出来たことで、様々な公的機関があります。 ○ ジョブ・トレーニングを終えてトライアル雇用という形でも結構ですし、アルバイトでも、少なくともその後何らかの公的な力の働く所に、しばらく継続して就労を試みさせるという方策もあるのではないかと考えています。
<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ それでは、引き続き4番の「意見交換」に入らせていただきます。 ○ この度、本ネットワーク会議委員の新しい任期を迎え、およそ半数の委員の方が代わられたようですので、ここで意見交換の場を設け、委員の皆様それぞれの立場からご意見をいただければと思います。 ○ 先ほども話がありましたように、昨年の急激な経済情勢の悪化により、雇用を取り巻く環境はかなり厳しくなっているものと認識していますが、その中でも、若年者への影響がかなり大きくなっているものと考えます。 ○ このような雇用失業情勢の中で、いかに対象者の把握と効果的な自立支援が出来るか、また、関係機関との連携がこれまで以上に重要になってくるのではないかと考えますが、いかがなものでしょうか。

<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ また、前回3月の会議では、各機関・団体の若年者自立支援事業などについてご説明いただきましたが、ここで、それぞれの団体等でご紹介いただける取り組みなどがありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。 ○ 差し支えなければ、頂戴したような資料等でご説明いただけるところがありましたら、先にお願ひできたらと思います。
<p>市嶋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 皆さんのお手元に「インディペンデント・レター」というニュースレターが配られていると思います。 ○ これは、私どもの活動の概要が少し分かるもので、3号を7月末に発行しました。 ○ 内容について細かくご説明しませんが、実は、これを企画段階から編集し作成したのは当事者の方達です。 ○ 私どもの会は当事者も一緒に会を作り上げて運営していくというスタイルをとっています。 ○ 外へお願いしていくというよりも、会の中で一人ひとりの若者が育っていくということを大事にしていまして、その一環としていろいろなことをやってもらっているのですが、今回初めてこのニュースレターを作成していただきました。 ○ 体裁その他に関してはまだまだ力不足なのですが、企画段階からプロセスを経て、原稿依頼をして、原稿をあげてもらって、自分たちで割付をして、編集して、印刷をしてという一貫の作業をやることによって、仕事の手順といったものを体験したというプロセスが本人たちの自信になったということで、そのように評価していただきたいと思います。 ○ 1ページめくっていただいたところに新潟日報の記事があるのですが、私どもの団体はすでに5年を経過しており、このような場に参画させていただいたり、あるいはサポートステーションへいろいろな形での協力で事業をさせていただく中で、任意団体では、ある意味、きちんとした責任がとりにくくなってきたという前年度までの状況を踏まえ、今年度、NPO法人の設立認証を申請しました。 ○ 8月10日に申請が受理され、問題なければ、4か月以内に法人認証がおりるだろうということで、新しい事業展開をいろいろな形で考えています。 ○ 今、サポートステーションでも大きな課題で取りかかっているのですが、引きこもり者に対する訪問事業というものを、かなりウエイトが高い形で展開していくということで、可能であればサポートステーションの力が及ばない部分を民間としてサポートしていけるような形をとっていきたいと思います。

事務局(竹葉)

- 今ほどの市嶋委員の資料の中にありましたが、私どもの利用者と一緒に「若え衆ら・サポートネットにいがた」が「マー君には夢がない」という映画を作られ、6月13日、6月21日にクロスパルで上映があったのです。
- 実は、今日皆さん方に配付させていただいた、「地域若者サポートステーション事例集」があります。
- これは全国93か所あるサポートステーションについて、厚生労働省の委託を受けて、財団法人社会経済生産性本部がとりまとめをしたものです。
- この98ページに映画を作った事例と、「きらめき」というジョブ・トレーニング先の、三川村でひめさゆりの保護のためのネットを張るボランティアに参加して、どのような効果があったかという事例が紹介されています。
- 6月21日の上映会には、参加された利用者が舞台上がって、いろいろと振り返りがあったのですが、学生時代に自分が主役でこんなことをやったことがないと。
- カメラや装置など、いろいろな役割があったのですが、そういう者を通じて僕は元気になったという報告があり、私も大変うれしく思ったわけです。
- そういう事例が載っておりますので、ご参照いただければと思っています。

中島委員

- 私から、それに関連したお話をさせていただきたいと思います。
- サポートステーションで、私もテレビ局を見学に行くツアーを2回ほど実施しました。
- というのは、各局がワイドショーを作っているのので、その制作現場へ行って、私たちも何となくニュース番組を、例えばジョブ・トレニュースみたいなもののビデオ版を作るような気分にならないかと思い、何人かに声をかけました。
- 最初の時は5人ほど来られたのですが、次はその方たちは一切来なく、他にお二人ほど来られているうちに、S君という私の会社の社員の彼が、映画を作っているんですと。
- 話を聞いてみたら、その方が盛り上がっているし、そちらを頑張れということで、私は止めてしまいました。
- 本当に出来上がって良かったと思うし、映画を作るという一つの共同作業を試してみるということは、今後とても有効ではないかと思っています。
- 何かをやるうとする時には、仲間と楽しみがないといけないと思っていますので、この作業は非常に評価しています。

<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ 他に何かございますか。
<p>田村委員 (代理:野村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 厚生労働省からの事業で、「橋渡し訓練」といわれるものを平成21年度にやることになっています。 ○ それにあたりましては、若者サポートステーションさんにご登録されている方を対象としてやることで決まっています。 ○ 平成21年度、新潟県としましては、まず20名ほどそういった方でやることで決まっています。 ○ 先ほど市嶋委員からもトライアル雇用といったお話があったと思いますが、私どもはそれのもう一歩手前の事業をやっており、事業主委託訓練制度というものがございます。 ○ 私どもの「ぐっ！Job！」という小さな冊子があるのですが、その中の3ページを見ていただければと思います。 ○ 自分はここの会社でやっていけるかどうかという迷いがある方も非常に多いと思います。 ○ 事業主の方も、本当にこの人とやっていけるかどうかというところで迷いがあると思います。 ○ お互いの迷いを、最長3か月という形なのですが、訓練生、訓練生を受け入れる企業さんという形で、お互いにお見合いのような形で見えていただく。 ○ その結果として、本当にやっていけるかどうか。 会社の方は、この人とならやっていけそうだなと。 ○ 訓練生の方も、僕もこの会社ならやっていけるということで、お互いに自信が掴めた場合に、そこで初めて雇用という形で実をならせていただくという制度があります。 ○ 橋渡し訓練というのは、この訓練をやる前に一度失った自信や社会に出るためのヒューマンスキルだったり、コミュニケーション能力といったものを橋渡し訓練という形で約1か月間やっていただく。 ○ その後、事業主の訓練だったり、そういった訓練に結びつけていくというような形でやっていきたいと考えています。 ○ 竹葉所長とはその辺で若干お話をしたことがあるのですが、まず、「YES - プログラム」のような形のものを1か月位やれないだろうかと。 ○ それをサポートステーションさんでやっていただき、その後、こういった事業所での訓練、例えばジョブ・トレーニング先でも構いませんし、そういったところをいくつか見つけ、そこで職業訓練という形でやっていただけないかということをお今のところ考えています。

<p>田村委員 (代理:野村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業訓練にあたりましては、訓練生については職業訓練生になりますので、給料は出ない形になってしまう訳です。 ○ 事業主の方としましては、私どもの公共の職業訓練を受けていただく形になります。 ○ 恐らく40歳以下の方が対象になるかと思imasので、一人1か月当たりの委託費は6万3,000円ほどお出しできるような制度になっています。 ○ そういった形で、この橋渡し訓練というものを実施させていただき、できれば、トレーニングの事業所先に、どのような形でもいいので雇用という形で最終的な成果が出るようにということで今のところ考えています。 ○ まだこれからということですので、詳しいものは決まっておりません。 ○ ただ、本年度中にサポートステーションさんと一緒にそういった事業に取り組みたいと考えているところです。 ○ それについては皆様のご協力をいただくことも恐らくあるかと思imasので、その際にはよろしくお願ひしたいと思imas。
<p>市嶋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 橋渡しというのはひらがなですか。
<p>田村委員 (代理:野村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「し」だけがひらがなです。
<p>市嶋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ブリッジの橋ですか。
<p>田村委員 (代理:野村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ そうです。この言葉自体が適切かどうかというのは何とも言えませんが、そういった訓練すらも一歩踏み出す迷いがあるという方に対し、もう一歩自信をつける何かができないかということをやっていきたいと思imas。
<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ 何か関連して、ご質問でも結構ですが、ございますか。
<p>矢野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連で質問なのですが、雇用情勢が非常に厳しい中で、実際にサポート事業の運営に何か影響が出ていますか。 ○ あるのではあれば具体的にお話しいただければと思imas。

事務局(竹葉)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な数字は把握していませんが、推測ですと、今、サポートステーションの利用者がアルバイト先で、今までアルバイトできていた所へ、仕事がないから普通の人が入ってきて、それでアルバイト先も少なくなっているのではないかと。 ○ 想像で申し訳ないのですが、アルバイト先は非常に少なくなっていることは確かです。
矢野委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来所者の方々への影響というか、こういう状況を見て焦っておられるとか、そういったところはいかがでしょうか。
事務局(竹葉)	<ul style="list-style-type: none"> ○ そういうものは、実は余りありません。 ○ この辺が問題なのですが、夢がない、やりたいことがないという人たちに何とかきっかけや動機付けというものをやっているわけで、その人たちがそれで非常に困っているということはないのではないかと思います。 ○ アルバイトができる人というのは、うちの利用者の3割位で、あとはまだそこまでいかない。 ○ 気持ちはあっても、そこまでは荷が重すぎる。 ○ というのは、先ほど言ったように、毎日ではできないのです。 ○ 中島映像さんの所へコンスタントに行っているという話をさせてもらいましたが、毎日ではないのです。 ○ 週二日とか、それも1日1時間とか、そういうところからやり始めている人が大半なので、アルバイトとなるとそんな勝手なことはできませんので、少なくとも時間が長くなると思います。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのことに関連したことなのですが、これは理念的なお話なので、具体的に討論していただくにはふさわしくないことだと思います。 ○ 先日、私、発達障がいの学会に出てきました。 ○ その発表の中でなるほどと思ったことは、職場に人が合わせようとしていたらいつまでたっても職に就けない人が多い。 ○ でも、人に職場を合わせていけば、どんどん働ける人が増えるだろうと。 ○ もはや、そういう発想の転換で障がい者の職場を考えていかなければ、目に見える効果的な支援活動はできないのではないかと資料等の中にありました。 ○ 本当にそのとおりで、発達障がいの方の言葉の中で、非常におもしろかったのは、「定型発達」という言葉がございまして、障がい学の中では健常者のことを「定型発達」というのです。

<p>中島委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ つまり、発達障がいを持っていらっしゃる方達というのは「非定型発達」なのです。 ○ その非定型発達の人たちが、定型発達の人たちが勝手に自分たちが一番やりやすいように作り上げた社会的システムの中に入り込まれるわけです。 ○ それを就労と言っている訳です。 ○ ここでそれを議論してくださいとかという話ではないのですが、そのところの問題点というものをどこか深いところで議論し、考えていただかないと、何か空回りしてしまうのではないかと。 ○ この間、ある勉強の席に出ましてつくづく思い、今の竹葉所長からのお話を聞きながら思い出した次第です。
<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございました。 ○ ほかに何かございますか。
<p>福島副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私が言うのが適当かどうかわからないのですが、今、発達障がいのことが出ましたので、一応触れておきたいと思います。 ○ 今、新潟市で発達障がい支援センター、新潟市の場合には「障がい者」の「者」をとって「発達障がい支援センター」という名称で、年度内に立ち上げる予定にしています。 ○ こころの健康センターで所管しているわけではないのですが、障がい福祉課が所管していて、私はその策定検討会に入っているものでお話をさせていただきたいのです。 ○ 更生慈仁会という、十字園など知的障がいの施設を運営されている法人に委託し、水道町にある「幼児ことばとこころの相談センター」を改装して同居し、月曜から土曜日までオープンする予定になっています。 ○ たしか1月だったと思うのですが、オープンする予定にしていますので、今後はそちらのセンターも入ってこういった議論をしていただければと思います。 ○ 障がい者就労はこの場とは少し違うかもしれませんが、中島委員がおっしゃった障がい者の就労という観点も入れながら対応していく必要もあるのではないかと感じました。 ○ 今後、そういったことも少し議論の中に入れていただければと思っています。 よろしくお願いします。
<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ 関連して何かございますか。

市嶋委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ このネットワーク会議は過去2年間運営されてきて、新しい委員の方も入っていると思うのですが、このネットワーク会議のあり方についてもう一度再確認というか、今後のビジョンのようなものを検討する必要があるのではないかと考えています。 ○ 一つには、情報交換の場としては十分機能していると思うのですが、例えばサポートステーションが抱えている課題のようなものを、どのようにネットワーク会議の中で受け止めているのかということが、実は既に問われ始めている。 ○ 3年目に入ってからの実施。3年、4年を迎え、いろいろな課題が出ておりました。 ○ それについてサポートステーションと市側だけではなかなか打開出来ないことや、あるいはマンパワー的にも厳しい部分があったり、それがある意味検討され、各委員の方がそれぞれの役割を持って動くというところまでいかないにしても、そこで課題に対する何か新しい解決策の方向性のようなことを討議されるような場になっていただくと、よりネットワーク会議が活性化してくるのではないかと思い、提案ということです。
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ただいま市嶋委員から、このネットワーク会議のあり方についてご提案がございましたが、それに関連して、何かご意見等がございましたらお願いします。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのことについては簡単に議論できる問題ではないことを承知で申し上げなければいけないのですが、サポートステーションに来られる利用者の皆さんの中の障がいというものをどのように捉えるか。 ○ この人は明らかに障がいを持っているため就労に非常に困難だという方と、単純に、社会的訓練が足りないため就労が困難だという、この二つをどこで線を引くかということは非常に難しい問題ですが、明らかに二つのタイプによって対応が違ってきます。 ○ そのことがこの2年間の間で明らかになりつつも、その方向性における議論が始まってもないことが、私の中では非常に混乱があり、そのことがきちんと整理されないと、例えば分会を作るなり、あるポイントに絞った議論がそろそろ行われなれないといけないのではないかと感じています。
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございます。 ○ ほかに何かございますか。

<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ かなり多くの機関の方にご参加いただいていますので、その辺のところも含めて、今後のより良いあり方についてご意見等をいただけたらと思います。
<p>南委員 (代理:佐藤)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育委員会学校支援課の佐藤と申します。 ○ 小学校，中学校のキャリア教育をしております。 ○ 中学校においては58か校ありますが，すべての学校で始まっています。 ○ 特に職場体験について全ての学校で行っています。 ○ 参考にならないかもしれませんが，そのような中で，大事にしていることは，特に役割感といいますか，さまざまなサポートステーションで活動されているわけですが，その中で参加者に対する役割というものを与えながら，あるいは役割というものを感じながら，自分の有用感を感じながら，次の役割や目標を考えていくということも中学，小学校で進めています。 ○ もう一つは，活動というものを大事にしているのですが，その活動の前後も含めて，特に終わった後に，その体験を通じて本人が気付いたこと，あるいは感じたこと，感動したことを書かせるですとか，話させるという体験をさらに伸ばしていくことも必要なのではないかと思います。 ○ その際，集団での話し合いといいますか，君も同じことを感じたんだねという共感ですとか，僕が感じなかったことを君は感じたんだねということに気付きながら，自分のことを変えていくのではないかと思います。 ○ そういう意味で，様々な活動の中で，役割という意識と，その後の気付きというものをお互いに持つような，一人だけではない，先ほども友達だという話がありましたけれども，そのようなものを入れたらどうかと思いました。
<p>事務局(竹葉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今，佐藤委員から大変すばらしいお話をいただいたのですが，実は私共もやっと，今までキャンプをやる場合も全部女性職員が買い物や準備など全部やったのです。 ○ 私は，それはもうやるなど，全部任せないと。 ○ 委員会を作って，委員会で喜々として喜んで献立やキャンプの場所を下見したりしているのです。 ○ その体験を発表させるということまで考えていなかったもので，そういうことにこれから力を入れたいと思います。 ○ サポステだよりを以前に作ったのですが，いつの間にか消滅してしまっているので，これを復活したい。

事務局(竹葉)	<ul style="list-style-type: none"> ○ それも、我々職員が主体ではなく、やはり主体は利用者にもって行って、役割を充てると皆喜んでやるのです。 生き生きとしてやるのです。 ○ 例えば調理実習とか、バーベキュー大会なども役割を決めて、非常にいい部分が出てきているので、今の佐藤さんからお話の体験を発表させたり、そこでどのようなことに気付いたのかということもサポステだよりに結びつけられるといいなど、今の佐藤さんの発言を聞いてヒントを得ることができました。 ありがとうございました。
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとうございました。 ○ 只今のサポステのあり方については、恐らくこの場ですぐに結論が出る問題でもないと思います。 ○ 各機関がそれぞれどのような役割が可能なのか、また、逆に団体毎に分からない部分もあると思うので、どのようなことが必要とされているのかということ、事務局も含めて、どのようなところからスタートすればいいのかということ、継続的に議論しながら、この会議のあり方を継続課題にし、次回、その辺についても議論できたらと思います。
事務局(笠原)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中島委員にお聞きしたいのですが、先ほど、障がいはどう捉えるかというお話がございましたが、具体的には発達障がいと捉えてよろしいのでしょうか。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当然、精神障がいもありますし、身体障がいに関しても当然のことながら就労には影響がある。 ○ 障がいに対応した意味合いでの就労支援という、私共は障がい者支援から入っていますからなおさらそうなのですが、現状、二つの関連でスポットが当たっているのがいわゆる発達障がいです。 ○ アスペルガーを中心とした、知的障がいを伴わない発達障がいという形になると思うのですが、その辺にまず焦点が当たって、それを進めていけば、統合失調症の人はどうするのか、うつ病の人はどうするのかという話になっていくと思います。
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほかに何かございますか。 ○ 今日の会議についてはそろそろ時間になりますので、継続的に議論を深めていきたいと思います。 ○ 本日、予定しておりました議事などはすべて終了しました。

<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 委員の皆様から特に何もなければ、以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきたいと思います。 ご協力ありがとうございました。 ○ では、事務局からお願いします。
<p>司 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ どうもありがとうございました。 ○ 今後とも若年者の支援のため、お力添えを賜りますよう、よろしくお願いします。 ○ なお、次回の会議についてです。 ○ 私ども事務局の予定としては、年内にもう1回と考えています。 ○ 会議の日程などにつきましては事務局で相談させていただき、その都度ご連絡を差し上げたいと思っています。 ○ その際には是非ご出席くださいますよう、よろしくお願いします。 本日はありがとうございました。